

開催者	No	時間	タイトル	趣旨	講師	分野
(一財)全日本私立幼稚園幼児教育研究機構	I-1	1.5	小児のアレルギーについて	本研修では、小児のアレルギーについての研修を行います。園児の皆さんに多い、アレルギー性鼻炎・結膜炎(花粉症)、食物アレルギー、アトピー性皮膚炎、気管支喘息などのアレルギー疾患について、正しい知識を得ていただきたく、園での生活の注意点などとあわせてアレルギー専門医の小児科医の立場から概説します。	野上哲夫/野上小児科医院院長	不記載
(一財)全日本私立幼稚園幼児教育研究機構	I-2	1	(安全・衛生シリーズ)乳幼児の重大事故・死亡事故の実態と事故予防「子どもの命と安全を守るために」	子どもたちの健やかな成長の場である教育・保育施設で、毎年複数の子どもたちが亡くなっているという事実をご存知でしょうか。重大事故はなぜ起こるのか、特に多い乳児や低年齢児の死亡事故を防ぐには何が必要なのか、事故の実例を通じて考えます。	藤井真希/赤ちゃんの急死を考える会(ISA)・保育の重大事故をなくすネットワーク	不記載
(一財)全日本私立幼稚園幼児教育研究機構	I-3	2	リスク・マネジメント	本研修では「リスク・マネジメント」についての研修会を行います。リスク・マネジメントとは危機管理といわれますが、様々な危険にあう可能性や結果として悪いことにつながることを含んでいるということになります。残念ながらリスクを完全になくすことはできませんが、重大な事故を防ぐために、先生方はもちろん、子どもたち、保護者も含め園全体で取り組む重要性を考えていきたいと思います。	飛田隆/茨城キリスト教大学文学部児童教育学科教授	不記載
(一財)全日本私立幼稚園幼児教育研究機構	I-4	2	食物アレルギーの最新基礎知識と対応	本研修では、食物アレルギーの最新基礎知識と対応についての研修を行います。主な内容は、近年のアレルギー疾患への対応の変化、医学的に見た食物アレルギーの仕組み、食品学からアレルゲンになりやすい食品たんぱく質、緊急時の対応等、幅広い分野から最新の食物アレルギーについて解説を行います。基礎知識を身につけ、食物アレルギーへの理解を深めていただければと思います。	小川雄二/名古屋短期大学教授・桜花学園大学副学長・名古屋短期大学付属幼稚園園長	不記載
(一財)全日本私立幼稚園幼児教育研究機構	I-5	2	第3回「子ども理解と記録」	保育活動を記録するにあたり保育の中で子どもを様々な角度から「みる」ことの大切さを学びます。「目に見えないもの」=内面を見ることが必要です。子どもの遊ぶ姿から5領域や10の姿を視点に学びを捉えること。幼児期における遊びの重要性について理解します。発達とは何かが出来るようになることではなく、子どもたちが能動的・主体的に活動している姿であり、保育者に求められるのはそれらを支援することです。「見る」「記録する」「理解する」過程で使用する記録形式はエピソード型・保育マップ型・チェックリスト型など目的に応じて使い分ける必要があります。	中橋美穂/大阪教育大学教育学部教員養成課程初等教育部門教授	不記載
(一財)全日本私立幼稚園幼児教育研究機構	I-6	1.5	子どもの育ちと学びを支える遊びの指導について「豊かな学びを目指して」	近年、テレビやゲームなどの電子機器の普及が進んだことでイメージや想像をして遊ぶ経験が少なくなったと感じます。遊びにおいて主体的・協同的に遊びを楽しみ、子ども一人ひとりのイメージや考えを豊かにし、学びを深められるような環境構成や援助を工夫することの大切さを改めて感じました。そこで、子どもの育ちと学びを支える遊びの指導について研究を進めることにした実践報告です。	江玉睦美/東九州短期大学幼児教育学科教授	不記載

開催者	No	時間	タイトル	趣旨	講師	分野
(一財)全日本私立幼稚園幼児教育研究機構	I-7	1.5	》(教材研究シリーズ)造形遊び「描画活動をアップデートしよう」	AIが革命的に進化し、人に代わって絵を描いてしまう時代に子どもたちは育っています。今、子ども達にとって「もの」を使って「絵を描く」という行為、遊びはどのような意味があるのでしょうか。幼児教育に関わる私たちは積極的にこの問いに応えなければなりません。従来型のテーマ中心、写生画中心、作品作り中心の活動は、子どもの視点から大いに見直し、新しい取り組みが今、必要です。描画活動を「ものとの遊び=造形遊び」の観点から捉えなおし、「形」や「色」で遊びながら、自然と絵画的な表現が生まれる保育を作り出していく、そのプロセスや手立てを具体的に解説し、共に考えて行きたいと思います。	今川公平/木の実幼稚園園長	不記載
(一財)全日本私立幼稚園幼児教育研究機構	I-8	1	植物遊びのススメ	前半は秋から冬にかけての実物を用いた植物遊びについて、後半はスライドをもとに一年を通じたたくさんの植物と実践について和やかに提案されています。植物とかかわる中で生まれる感覚的な驚き、好奇心、気づく面白さ、それらから得られる多様性の理解そして環境構成など、示唆に富んだ内容となっています。	出原大/むぎの穂保育園園長	不記載
(一財)全日本私立幼稚園幼児教育研究機構	I-9	1	保育現場でなぜICTを導入する必要があるのでしょうか？	日々の事務的な業務に追われ、教育保育の専門性に充てる時間の確保が喫緊の課題となっている現状があるのではないのでしょうか。この状況に対処する一つ方法として、事務的な部分のICT導入に焦点を当てた研修動画です。動画では、ICT化がもたらす利点や、具体的に何がICT化できるのか、その効果的な手段についてわかりやすく解説します。実際に導入した園の先生方のコメントも交え、より実践的で現場に即した内容となっています。この研修は、ICT導入を検討している園や将来的に考えている園にとって必見の内容となっています。また、講師は全国の園のICT化を支援している経験豊富なシステム会社のスタッフが登壇します。設置者や園長先生はもちろん、事務職や主導的な立場の先生方にご覧になっていただければと考えます。	西尾真吾/VISH株式会社執行役員	不記載
(一財)全日本私立幼稚園幼児教育研究機構	I-10	1.5	主体性を大切にしたい保育とは何か~主体性に対する考え方の変遷から主体性を定義する~	「みんなで活動をする」とを設定・一斉保育と捉え「設定は子どもが窮屈になる」「子どもの主体性が損なわれる」と考えていました。しかし、子どもが活動を媒介して友達と関わる姿を見て、設定保育や一斉保育でも子どもたちが主体的に取り組むことができることを感じ、主体性を大切にしたい保育とは何かを考えるようになりました。自由遊びが中心の3歳児からプロジェクト活動が中心となる5歳児までの活動を系統的に考察し、保育者の中における主体性の定義と主体性を発揮する保育を提言してみたいと思います。	井内聖/学校法人リズム学園園長・北海道文教大学客員教授	不記載
(一財)全日本私立幼稚園幼児教育研究機構	I-11	1	ごっこ遊びの事例から、人間関係の学びを考える	本研究の目的は、当園が2学期後半に行事として行う「お店屋さんごっこ」を題材にごっこ遊びがこどもの遊び、育ちにどのように影響するか、子ども同士の関係性は変化するものなのかを考察することです。当園のお店屋さんごっこは異年齢保育にて行うことから、保育者の子どもへの援助、環境の提供が重要になってきます。よってごっこ遊びの活動から、子どもの意欲を読み取り、異年齢の子ども同士の助け合いや教え合いなど様々な人間関係につなげることに言及していきたいと思っています。	大澤洋美/東京成徳短期大学幼児教育科教授	不記載

開催者	No	時間	タイトル	趣旨	講師	分野
(一財)全日本私立幼稚園幼児教育研究機構	I-12	1	「おいしいね!」がもたらすいくつもの力(パワー)子どもたちに育っているチカラ・私たちが実感しているチカラ	朝からお野菜のお世話をしたり、おひるごはんを作るおだいどころスタッフの姿やにおいに包まれながら過ごす毎日。「おいしい!」「おかわりください!」の声が響くおひるごはんの時間。そんな毎日の中で子どもたちが、“食べることを通して五感が刺激されたり、友達や先生と楽しい時を過ごせたり、意欲的に生活や遊びに没頭したりと“食べること=生きること”につながっていることを実感しています。保育の中で取り組んでいることなどをまとめ、その中に育まれる生きる力や粘り強さ、その積み重ねが子どもたちにどのように育まれていくのか考えていきたいと思っています。	河邊貴子/聖心女子大学教育学科 教育学専攻・初等教育学専攻教授	不記載
(一財)全日本私立幼稚園幼児教育研究機構	I-13	0.5	労務中級1	このたびの研修動画では、労務初級編に続いて中級編を取り上げ、全3回を配信いたします。労務中級編1のテーマは、「労使協定の締結」です。日本では、働き方改革の推進などによって、雇用形態を含め様々な働き方が増えています。幼稚園においても、認定こども園や小規模保育事業の開設などにより、幼稚園教諭だけでなく、保育士や看護師、栄養士など様々な職種の方が働くようになり、以前のような画一的な職種で構成されていません。また、労働時間も職種によって変わってくることも多く、同じ職種であっても働き方が違っていることもあります。今回の労務中級編の講座では、労務において基本的に理解しておくべきことの復習をするとともに、労使協定や扶養の範囲、無期転換ルールなど、労務を理解していく上で勤違いが起こりやすい箇所の整理と最新の情報を学習していただきます。	安岡知子/社会保険労務士法人 財総研	不記載
(一財)全日本私立幼稚園幼児教育研究機構	I-14	0.5	労務中級2	このたびの研修動画では、労務初級編に続いて中級編を取り上げ、全3回を配信いたします。労務中級編2のテーマは、「年収106万、130万の壁対策」です。日本では、働き方改革の推進などによって、雇用形態を含め様々な働き方が増えています。幼稚園においても、認定こども園や小規模保育事業の開設などにより、幼稚園教諭だけでなく、保育士や看護師、栄養士など様々な職種の方が働くようになり、以前のような画一的な職種で構成されていません。また、労働時間も職種によって変わってくることも多く、同じ職種であっても働き方が違っていることもあります。今回の労務中級編の講座では、労務において基本的に理解しておくべきことの復習をするとともに、労使協定や扶養の範囲、無期転換ルールなど、労務を理解していく上で勤違いが起こりやすい箇所の整理と最新の情報を学習していただきます。	安岡知子/社会保険労務士法人 財総研	不記載

開催者	No	時間	タイトル	趣旨	講師	分野
(一財)全日本私立幼稚園幼児教育研究機構	I-15	0.5	労務中級3	このたびの研修動画では、労務初級編に続いて中級編を取り上げ、全3回を配信いたします。労務中級編3のテーマは、「非正規教職員の雇用条件」です。日本では、働き方改革の推進などによって、雇用形態を含め様々な働き方が増えています。幼稚園においても、認定こども園や小規模保育事業の開設などにより、幼稚園教諭だけでなく、保育士や看護師、栄養士など様々な職種の方が働くようになり、以前のような画一的な職種で構成されていません。また、労働時間も職種によって変わってくることも多く、同じ職種であっても働き方が違うこともあります。今回の労務中級編の講座では、労務において基本的に理解しておくべきことの復習をするとともに、労使協定や扶養の範囲、無期転換ルールなど、労務を理解していく上で間違いが起りやすい箇所の整理と最新の情報を学習していただきます。	安岡知子/社会保険労務士法人財総研	不記載
(一財)全日本私立幼稚園幼児教育研究機構	I-16		新任保育者の育ちを支えるために—とも に学び、育ち合う園を目指して—	新任育成が難しいと課題に感じておられる園のリーダーはたくさんいらっしゃると思います。この動画は、新任保育者を育成するために園内で取り組み、効果を感じている具体例の紹介です。主なテーマは、1園で実際に行うワークの紹介 2新任と共に過ごした先輩の思いや配慮、また、新任として嬉しかったことや難しかったことなどの振り返り 3園として、新任を育てるための心持ちやしぐみの紹介です。各園の新任育成に少しでもお役立ていただければ幸いです。	安達謙/せんりひじり幼稚園・ひじりにじいろ保育園園長	不記載
(一財)全日本私立幼稚園幼児教育研究機構	I-17	1.5	(子どもの発達シリーズ)知覚の発達	私たち人間はいわゆる五感と呼ばれる感覚情報を用いて外の様子を常に観察しています。その中でも、見る聞くの2種類の感覚は少し特殊で、私たちの体から離れたところにある物についての情報を提供してくれます。特に視覚によって伝わる情報は非常に多く、他のどの感覚情報に関わる脳部位より視覚に関わる脳部位は大きいです。この広い脳部位が生まれた後のさまざまな経験を得ることで変化し、私たちのものの見え方は赤ちゃんから大人へと変化していきます。本講義ではその視覚の発達を、目の構造、盲点、無意識の処理、経験によって変わる見え方、奥行き知覚、顔の知覚、視線、言葉の学習と視覚、発達障害などのキーワードから解説します。	加藤正晴/同志社大学赤ちゃん学 研究センター准教授	不記載
(一財)全日本私立幼稚園幼児教育研究機構	I-18		(子どもの発達シリーズ)発達理解の視点 と子どもの発達の時代による変化	近年、子どもたちの発達の様相が変わってきているという声 が、幼児教育や保育の現場からあがっています。具体的には、「 体力が落ちている」、「手先が不器用になっている」、「我慢 がきかない」、「集団活動に入りにくい」、などです。子ども たちの発達にどのような変化が生じているのでしょうか。そし て、大人は子どもたちの育ちとどのように向き合っていく必 要があるのでしょうか。この講義では、子どもの発達の時代 による変化について解説するとともに、どのような時代にあっ ても、子どもの育ちに寄り添い、成長を支えていくために必要 な「発達理解の視点」について具体例を交えながらお話し します。	大谷多加志/京光華女子大学心 理学研究科臨床心理学専攻准教 授	不記載

開催者	No	時間	タイトル	趣旨	講師	分野
(一財)全日本私立幼稚園幼児教育研究機構	I-19	1.5	(子どもの発達シリーズ)子どもの主体性を育む保育の役割	子どもの主体性を尊重した保育の重要性が言われていますが、そもそも「主体性」をどのようにとらえたら良いのでしょうか。子どもの自由にさせることでしょうか、子どもの自己決定を重視することでしょうか。では、子どもはどう決定しているのでしょうか。本講演では、子どもの主体性の考え方を整理した上で、保育者の役割について考えていきます。近年、幼稚園でも3歳未満児の保育も重要になってきたことをふまえ、3歳未満児の主体性を育む視点についても取り上げます。	川田学/北海道大学教育学研究院 乳幼児発達論研究室准教授	不記載
(一財)全日本私立幼稚園幼児教育研究機構	I-20	1	子どもの育ちと経験の理解	子どもたちの日々の遊びには「楽しいね」「面白いね」と思うことがたくさんあります。子どもたちの遊びや日々の生活の動画を全国から集め、子どもたちが環境や遊びから何を学び何を理解しているのか、5つの視点(1先生の関わり2環境3遊びの発見4子ども同士の関わり5子どもの気づき発見)で動画を記録しました。記録した実践者の子どもたちの見取りや、和歌山信愛大学教授 大橋功先生から要領指針や3つの柱、10の姿などから子どもたちの学びを解説していただいています。この動画を視聴し、子どもたちの見取りや学びを一緒に考えることができる動画となっています。	大橋功/和歌山信愛大学教育学部 子ども教育学科教授	不記載
(一財)全日本私立幼稚園幼児教育研究機構	I-21	2	保育記録の書き方と生かし方—自分の保育をブラッシュアップしよう!—	本講座は4~7年目の教員に向けた、記録についての理解を深め、自分の保育を豊かにすることを目的とした講座です。保育記録の種類・メリットやデメリット、使用できる場面や利用の仕方等を事例を上げ、現場の先生の悩みにも寄り添いながら講義する内容となっています。4~7年目の教員は新人区分から出て中堅職員と呼ばれる時期になります。その中で保育こそが自分のキャリアであり、実績であるという事を再度認識し、保育記録をいやいや書くのではなく、子どもの発達をとらえるものとして、保護者とのコミュニケーションツールとして、そして自分のキャリアを築くものとして作成してもらいたいと願う講座です。	田代幸代/共立女子大学家政学部 児童学科教授	不記載
(一財)全日本私立幼稚園幼児教育研究機構	I-22	2	(特別支援シリーズ)障がいのある子どもやその可能性がある子どもの保護者支援	本動画では、障がい児保育の現状をおさえうえで、インクルージョンや合理的配慮、ユニバーサルデザインといった概念を説明し、これからの障がい児保育における課題を整理していきます。次に、障がいのある子どもの保護者の「障がい受容」にまつわる考えを紹介します。ここでは、特に発達障がいの可能性がある子どもの保護者へのかかわりに焦点づけ、保護者が我が子の発達障がいの可能性にどのように気づいていくのか、具体的な保育者のかかわりを例に挙げながら、保護者の側から捉えた心情変化のプロセスについて解説します。最後に、これらを踏まえ、障がい児や障がいの可能性がある子どもの保護者支援のポイントについて説明します。	木曾陽子/大阪公立大学大学院現代システム科学研究科現代システム科学専攻准教授	不記載
(一財)全日本私立幼稚園幼児教育研究機構	I-23	1.5	(特別支援シリーズ)子ども理解と関わり方の視点	特別を要する子どもに対する基本的理解とその対応を学びます。気になる行動をする支援を要する子ども・様々な発達症(ASD・ADHD・LD)についての特徴を理解し、その具体的な支援を学びます。また、愛着障がいについての行動特徴の理解を深め、関わり方を学びます。	伊丹昌一/梅花女子大学心理こども学部心理学科教授	不記載

開催者	No	時間	タイトル	趣旨	講師	分野
(一財)全日本私立幼稚園幼児教育研究機構	I-24	3	6年度I-24)インクルーシブ教育を考える 「特別な支援が必要な子どもたちと共にある保育」	本研修では「インクルーシブ教育システム」について、これから求められる幼児教育の動向に関連付けて説明します。また、幼児期の自閉スペクトラム症についての基礎的な理解が得られるように説明します。特性の理解や支援の方法の提案とともに、担当となった保育者が一人で特別な支援を必要とする子どもたちをみるのではなく、チーム園として取り組む考え方を示し、具体的な園の事例をまじえながら説明します。	加藤篤彦/(一財)全日本私立幼稚園幼児教育研究機構専務理事	不記載
(一財)全日本私立幼稚園幼児教育研究機構	I-25	2	カリキュラム・マネジメント	本研修では「カリキュラム・マネジメント」についての研修会を行います。カリキュラム・マネジメントは幼稚園、学校教育の教育課程をもとに教育の改善・充実を目指すこと、教育活動全般の質の向上を図っていくということになるのではないかと思います。多くの先生方がすでに取り組んでいるのではないかと思います。改めましてカリキュラム・マネジメントについて解説していききたいと思います。	飛田隆/茨城キリスト教大学文学部児童教育学科教授	不記載
(一財)全日本私立幼稚園幼児教育研究機構	I-26	1.5	(教材研究シリーズ)科学遊び「気づき、発見、試行錯誤、工夫が生まれる保育のために」	「手軽にできる科学あそび」と「試行錯誤や工夫が生まれる科学あそび」をテーマに、入手が容易な様々な教材と素材を用いた遊びを紹介していただきます。動画を視聴しながら、参加者にも実際に職場や家でその科学あそびを試してもらい、どういうドキドキ(面白い!不思議!?)やヒラメキ(こうやってみたら?)を感じるかを実感していただき、実際の保育に具体的に取り組む際のヒントになればと願っています。	瀧川光治/大阪総合保育大学児童保育学科教授	不記載
(一財)全日本私立幼稚園幼児教育研究機構	I-27	1.5	(子ども理解シリーズ)第30次プロジェクト 幼児理解から考えるカリキュラム・マネジメント	幼児教育では、子どもの姿や子どもの興味・関心を出発点とし、加えて保育者のねらいや願いを踏まえ、保育計画や保育活動に取り組むことが重要であると考えます。このプロセスの中で、とりわけ大切になってくることは「幼児理解」です。第30次プロジェクトでは、この幼児理解を出発点として、日々の保育や子どもの姿を振り返り、いかにカリキュラム(指導計画)反映していくかということを実践を出し合いながら検討してきました。今回の発表では、この考え方にに基づき、メンバー各園でどのように取り組みを進めてきたか。そしてその実践からどのような変容(成果や課題を含む)が見えてきたかということ、研究の中間発表的な位置づけで行います。	瀧川光治/大阪総合保育大学児童保育学科教授	不記載
(一財)全日本私立幼稚園幼児教育研究機構	I-28	2	(保育環境シリーズ)園庭づくり	幼稚園教育要領の第1章総則>第1 幼稚園教育の基本 では、「幼稚園教育は、学校教育法に規定する目的及び目標を達成するため、幼児期の特性を踏まえ、環境を通して行うものであることを基本とする。」と記されています。環境を通して行うことが基本である一方で、幼児教育・保育の養成課程や現職者研修等で「環境構成論」等が確立されているとはいえ、各園が独自に、あるいは研究者や大学教員の協力を得て試行錯誤しているのが実態ではないでしょうか。また、園庭の環境や遊具・教具に関しては予算が必要な事項が多く、設置者(理事長)や園長などのトップリーダーや管理職の理解を得なければ、現場の保育者だけの判断で大規模な再構成を行うことは難しいのではないのでしょうか。この研修動画では、全国各地の幼稚園での園庭の環境構成の実際とその背景にある教育的意図、その園庭環境で実際に遊ぶ子どもの姿などの事例を紹介し、みなさまの園での園庭づくりの一助になればと願っています。	小倉庸寛/愛泉幼稚園園長	不記載

開催者	No	時間	タイトル	趣旨	講師	分野
(一財)全日本私立幼稚園幼児教育研究機構	I-29	1	子ども主体で遊びが充実するための環境構成と保育者の在り方	大分県私立幼稚園連合会分科会での動画収録です。よいこの森こども園が研究発表に取り組むにあたり、子どもたちが主体的に遊びを進めるためには、「環境」はとても大切であると職員間で話しあわれました。「異年齢保育」という環境の中で、環境構成や、友だち、保育者の援助や関わり方や、子どもの発言から遊びを展開する姿を考察して、研究を進めた事例発表の収録です。	阿南寿美子/西南女学院大学短期大学部保育科准教授	不記載
(一財)全日本私立幼稚園幼児教育研究機構	I-30	1.5	わたしはわたし みんなのなかのわたし	今後、予測困難で不確実、複雑であいまいな時代が予測され、そうした時代を生きていく子どもたちに、今、必要な教育は何かを考えていきたいと思えます。「不適切な保育」とはどのようなことなのか? 虐待により子どもたちにどのような影響があるのか?子どもたちの学びにつながる保育・教育にするために、具体的にどのような関りや環境が必要なのか?子どもを信頼すること、また愛着形成の大切さを学びます。	安家周一/(一財)全日本私立幼稚園幼児教育研究機構理事長	不記載
(一財)全日本私立幼稚園幼児教育研究機構	I-31	2	子どもの姿に基づく保育の実践と評価~カリキュラム・マネジメント~	本研修では、これからの時代の乳幼児教育の在り方について、国内外の動向を踏まえつつ、特に、子どもの姿に基づく保育の実践と評価について考えます。子どもの主体性を尊重し、子どもの姿に基づく保育の計画と実践にあたって、保育者が前提としたいことや、誕生からの子どもの育ちを踏まえること、環境の構成や再構成、援助の工夫の在り方について、確認します。また、具体的に、自らのクラス環境を振り返り、子どもの姿に基づく環境構成について、具体的な演習を通じて考えます。さらには、保育の質の維持・向上を目指す上での、保育独自の計画や、実践、省察と評価、改善等、カリキュラム・マネジメントの在り方を考え、自園での活用方法について考えます。	北野幸子/神戸大学大学院人間発達環境学研究科教授	不記載
(一財)全日本私立幼稚園幼児教育研究機構	I-32	1	家族の子育て・パパの子育て~みんなで子育て考えよう~	子育てでは父、母それぞれの役割があります。道徳心、社会性、強さをもった父性と自己肯定感、優しさをもった母性が合わさることで育児力になり、子どもの成長に必要な関わりに繋がっていきます。母性と父性のバランスは大事なことです。女性だから母性がある、男性だから父性があるのではなく互いに補い合うことが大切です。また、子育ては1人でするのではなく、家族や周りの環境とまじわりながらみんなで協力することが大切です。	小崎恭弘/大阪教育大学教育学部健康安全教育部教授	不記載
(一財)全日本私立幼稚園幼児教育研究機構	I-33	1.5	チームで取り組む子育て支援	就学前施設における子育て支援の在り方について学びます。保護者が安心して相談できる支援の在り方や、子育てを取り巻く状況の理解、また、個々の対応が必要とされる支援のかたち等、求められる支援にどのように応えていくかを考えます。子育て家庭が抱える様々な問題に対して、保育者の連携だけでなく、専門機関にもつなげ、チームとして子育て支援を行うことの重要性を学びます。	澤田真弓/兵庫大学教育学部教育学科准教授	不記載
(一財)全日本私立幼稚園幼児教育研究機構	I-34	1.5	(子育て支援シリーズ)カウンセリング概論	ここでは、保護者への対応や子どもの見とりの際に役立つカウンセリング的なアプローチについて、受講者のみなさんと一緒に考えて行きたいと思えます。カール・ロジャーズが提唱したカウンセリングでは、「受容」「共感」「自己一致」の3つがカウンセリングの大切な要件として挙げられています。これは技法というよりは対応する側(保育者)の姿勢や態度について述べたものと考えられます。今回は具体的な場面を提示しながらこの3つの要件について考え、みなさんが少しでもカウンセリング的な態度を身につけ、保育現場での支援に繋がっていかれたらと思います。	菅野信夫/京都橘大学総合心理学部総合心理学科教授	不記載

開催者	No	時間	タイトル	趣旨	講師	分野
(一財)全日本私立幼稚園幼児教育研究機構	I-35	1.5	身近にいる生き物(虫)と子どもたちのかかわりを各園の先生たちと考えよう	子どもたちの日々の遊びには「楽しいね」「面白いね」と思うことがたくさんあります。子どもたちの遊びや日々の生活の動画を全国から集め、今回は「虫」とのかかわりを中心に、子どもたちが環境や遊びから何を学び何を考えているのかなどを記録しました。実践者である先生たちがどのような思いで生き物とのかかわりを考え子どもたちと寄り添っているのか、全国5園の先生方にインタビューしています。最後に虫博士である九州大学総合研究博物館准教授丸山宗利先生にご助言をいただいています。今から夏に向け子どもたちと生き物に触れる機会が多くなると思いますので、子どもたちと共に生命の営みや不思議さを子どもたちと考える機会になればと思います。	丸山宗利/九州大学総合研究博物館准教授	不記載
(一財)全日本私立幼稚園幼児教育研究機構	I-36	2.5	幼稚園教育(保育)が面白く、楽しくなるためには? 仕事を続けるために	この研修は5年以上の経験を有する中堅教員を対象としたものです。中堅教員としては、社会から見た幼稚園・認定こども園の存在の意味と幼児教育の大切さを考え、幼稚園・認定こども園教諭として質の高い保育力を身につけておかなければなりません。そのために、子どもの育ちを多方面から見る力、経験豊富な教員としてのリーダーシップ等が必要になります。保育の質を向上するためには、中堅の先生たちがよりイキイキと仕事に向き合い、保育が楽しいと感じている状態がとても大切です。今回は、仕事を楽しんでいる人たちの事例を紹介しながら、みなさんの仕事が面白くなるような内容になっています。面白く楽しく仕事をするために必要なこと学んでいきましょう。	汐見稔幸/東京大学名誉教授	不記載
(一財)全日本私立幼稚園幼児教育研究機構	I-37	2.5	これからの私立幼稚園の在り方を考える1 園長のリーダーシップと組織運営	この研修は、園長・主任を対象としたものです。幼児教育に携わる園長や主任は、園運営を行っていく上で様々な課題に直面し、自身の資質能力の向上が求められる役割と言えます。今回は、マネジメント分野研修会として、社会全体から保育を取り巻く現状から課題を確認し、よりよい園づくりのために必要なリーダーシップや「保育の実感」について学んでいきます。さらにその保育の実感を得るための一つの方法物語的保育論へ展開されていきます。特に、私立幼稚園園長の事業継承と葛藤についても語られていますので、一族等で事業継承する園の先生方にも参考になる研修です。私立幼稚園の在り方を深く学ぶため、2講座開催としましたので、別の研修もぜひ続けてご参加ください。	上田敏文/名古屋市立大学大学院人間文化研究科人間の成長と発達分野(社会と教育)教授	不記載
(一財)全日本私立幼稚園幼児教育研究機構	I-38	2.5	「社会に開かれた教育課程」ということを考える	この研修は5年以上の経験を有する中堅教員を対象としたものです。中堅教員としては、社会から見た幼稚園・認定こども園の存在の意味と幼児教育の大切さを考え、幼稚園・認定こども園教諭として質の高い保育力を身につけておかなければなりません。そのために、子どもの育ちを多方面から見る力、経験豊富な教員としてのリーダーシップ等が必要になります。今回は、どのような社会が「よりよい社会」なのかを考え、中教審答申やSDGsを題材に「社会に開かれた教育課程」や保育実践が政治実践になることの意味を考える内容になっています。子どもたちの話し合いにおける保育者として大事にすることも語られており、考えて実践する保育者になってほしいという講師の願いも感じていただければと思います。	汐見稔幸/東京大学名誉教授	不記載

開催者	No	時間	タイトル	趣旨	講師	分野
(一財)全日本私立幼稚園幼児教育研究機構	I-39	2.5	これからの私立幼稚園の在り方を考える2 幼稚園教諭のキャリアと組織開発	この研修は、園長・主任を対象としたものです。幼児教育に携わる園長や主任は、園運営を行っていく上で様々な課題に直面し、自身の資質能力の向上が求められる役割と言えます。今回は、マネジメント分野研修会として、私立幼稚園の在り方を深く学ぶための2講座目となります。1講座目の研修から連続して受講されることをおすすめします。私立幼稚園の園長・保育者・主任教諭のキャリアについて、様々なデータから実態理解に努め、そこから組織として「うまくいく」ための方法について検討していきます。園という集団が成長するために、組織開発についての理解を皮切りに、園内研修(ある園での事例)を通して保育者が学びを深めるためのヒントを学んでいきましょう。	上田敏文/名古屋市立大学大学院 人間文化研究科人間の成長と発達分野(社会と教育)教授	不記載
(一財)全日本私立幼稚園幼児教育研究機構	I-40	2.5	領域表現・再考 表現する子どもたちを読み取ろう	この研修は5年以上の経験を有する中堅教員を対象としたものです。中堅教員としては、社会から見た幼稚園・認定こども園の存在の意味と幼児教育の大切さを考え、幼稚園・認定こども園教諭として質の高い保育力を身につけておかなければなりません。そのために、子どもの育ちを多方面から見る力、経験豊富な教員としてのリーダーシップ等が必要になります。研修前半では「表現」に関わる言葉を、6領域といわれた時代からの変遷を踏まえて再考し、子どもの表現の特性について理解を深めていきます。後半では、質の高い保育を実践できる集団をつくることに繋がるよう、年齢ごとの実践を紹介し、感性・表現の発達に対して保育者としてどのような関わりが望ましいのかを考えていきましょう。	鈴木裕子/愛知教育大学幼児教育 講座教授	不記載